

大学生における「からだ」への意識について

麻 生 和 江*

【要 旨】 極端な細身が優位とされる風潮がある。様々なダイエット志向の情報も氾濫し、猟奇的で残虐な犯罪の報告も多い環境にあって、身体が玩具のように物化される危機感を感じる。教育、表現、健康の視点から、若者（大学生）には自分の「からだ」を防護する手だての指導は緊急の課題と考えられる。そこで本稿では、その手がかりとして、形状、運動機能、健康・自己制御の視点から、大学生におけるからだへの意識を把握することを目的として質問紙による調査を実施した。

結果として全体的には、半数以上の学生が今の自分の形状に不満があり、細身への変身願望が強く、女子は男子に比べて細身への変身願望が顕著であった。また、調査対象の約8割は運動が好きと回答し、男子は女子より運動好きが多く、動きの機能においても男子の方が女子より高く自己評価する傾向がある等、大学生における「からだ」への意識の一端を把握することができた。

【キーワード】 からだの形状 運動能力 健康 自己制御

I はじめに

講義の一端¹⁾で、大学生に「あなたにとって身体とは何ですか」という質問をした。「皮膚一枚で外界と仕切られる自分」「自分に最も身近で最も勝手がきかない衣服」「自分の存在自体」「あらゆる表現の源」「考えたことがない」等の回答があった。これらは模範的であるが、自分の身体を感じとろうという実感が伴わない観念的な回答であるようにも考えられる。

細身が優位とされる風潮がある。エステに表示される理想体重は、「病的」寸前のローレル指数であり、若い女は起伏の少ない、いわゆるファッションモデルの体型に憧れる傾向があると指摘されている²⁾。インターネットでは様々なダイエット志向の情報も氾濫している。2002年に起こったフェンフィルラミン含有の中国茶のような毒素を含有する痩身薬は、現在でも安易かつ安価に入手できる³⁾。「サプリメント」は「栄養補助食品」であるが、食事よりサブリ

平成15年4月23日受理

*あそう・かずえ、大分大学教育福祉科学部情報社会文化課程舞踊学教室

本稿は、2002年12月22日に広島市で開催された、第22回全国創作舞踊研究発表会での発表に加筆修正を付した。

メントで栄養を摂取する習慣が性別・年代を問わず、一般化しつつある現状は、新聞⁴⁾でもとりあげられた。

一方、コンピューターグラフィックスではヴァーチャルとは思えないような完成度で、思い通りの身体が創出され、ゲームとして殺人を楽しむ類もある。丹羽⁵⁾は中学生を対象とした「遊び」の調査の中で、残酷ビデオに価値を置く子供ほど漫画・ビデオの視聴時間が長く、不安傾向が強い事を報告している。また、ここ数年、身体への猟奇的で残虐な事件の報道が増加したように思われ、丹羽⁵⁾の報告とあわせて、自他を問わず、身体が玩具のように物化されているような危機感を感じる。このような環境にあって、若者（大学生）は自分の「からだ」⁶⁾をどのように認識しているのか。教育、表現、健康を指導する立場から、把握しておく必要があると考えた。

そこで、本稿では、からだについて、形状、運動機能、健康・自己制御の視点から、大学生におけるからだへの意識を把握し、指導に資する一資料を得る事を目的とした。

Ⅱ 方法

調査用紙による意識調査を実施した。調査方法等は以下のとおりであった。

調査対象：大分大学教育福祉科学部学生147名であり、内訳は表1に明記した。それぞれの開講年度月日は2002年4月-9月であり、調査はそれぞれ1時間目のオリエンテーション時に実施し、回収した。

表1 調査対象

授業科目名	内 容	表記	合計	男子	女子
現代芸術事情 ⁷⁾	諸芸術概論：音楽・美術教官とオムニバス, 2年生	理論	42	10	32
シェイプアップ	教養実技：エアロビクス, ストレッチング, リズムダンス等, 1年生	教養	39	0	39
小学校体育ダンス	専門実技：主に表現・創作の実習, 1年生以上	専門	66	19	47

調査内容：からだの形状、機能、健康・自己制御の視点から調査項目を設定した。回答は多肢選択法と自由記述であった。多肢選択法において、方法・理由等を問う項目については複数回答可とした。

数値処理：多肢選択による回答項目はそれぞれの母集団を分母にパーセンテージを求めた。自由記述は筆者が内容を読解し、類型化の項目と回答数を求めた。なお、傾向には、性別、授業内容による相違が考えられたので、全体とともにこれらの対象群別の数値を求めた。複数回答を許可しない項目については、全体の項目間の回答率、性別による回答率に χ^2 検定を行った。結果は、表2から表8に示した。

Ⅲ 結果と考察

1 からだの形状について

結果は、表2-1, 2参照に整理した。

表2-1 自分のからだの形状について

(%)

項目	対象	全体	男子	女子	理論	教養	専門
		147	29	118	42	39	66
A. 認識							
1. 体重							
ア. 知っている		91.8	96.6	90.7	95.2	89.7	90.9
イ. 知らない		8.2	3.4	9.3	4.8	10.3	9.1
χ^2 検定		***					
2. スリーサイズ							
ア. 知っている		13.6	6.9	15.3	11.9	20.5	10.6
イ. 知らない		86.4	93.1	84.7	83.1	79.5	89.4
χ^2 検定		***					
B. 計測							
1. 体重							
ア. よくする方		50.3	41.4	51.7	42.6	61.5	47.0
イ. しない方		49.7	58.6	48.3	57.4	38.5	53.0
χ^2 検定							
2. スリーサイズ							
ア. よくする方		2.0	0.0	2.5	0.0	5.1	1.5
イ. しない方		98.0	100.0	97.5	100.0	94.9	98.5
χ^2 検定		***					
C. よくする理由⁸⁾							
	n=73	n=12	n=61	n=18	n=24	n=31	
ア. 健康管理		27.4	50.0	43.6	50.0	16.7	22.6
イ. 形状管理		56.2	50.0	57.4	50.0	70.8	48.4
ウ. その他		13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7
D. しない理由⁹⁾							
	n=144	n=28	n=116	N=42	n=73	n=65	
ア. 面倒くさい		25.7	14.3	28.4	26.3	27.0	24.6
イ. 必要性がない		22.2	10.7	19.0	28.6	16.2	21.5
ウ. 変動がないと思う		13.2	21.4	10.3	19.0	5.4	9.2
エ. 知りたくない		11.1	0.0	13.8	4.8	18.9	7.7
オ. その他		16.0	7.1	17.2	11.9	0.0	21.5
E. 形状への好嫌							
ア. 気に入っている		16.3	37.9	11.0	14.2	0.0	27.3
イ. 気に入らない		67.7	27.6	77.1	54.6	76.9	69.7
ウ. 考えたことがない		16.3	34.5	11.9	31.0	23.1	3.0
χ^2 検定		***	**				

※ χ^2 検定 0.1%水準:***, 1%水準:**, 5%水準:*

表2-2 自分のからだの形状について

(%)

項目	対象	全体	男子	女子	理論	教養	専門
		147	29	118	42	39	66
F. 形状への要望							
ア. 細くなりたい		72.8	51.8	78.0	57.1	79.5	78.8
イ. がっちりになりたい		13.6	24.1	11.0	19.0	0.0	18.2
ウ. 今のままでよい		13.6	24.1	11.0	23.9	20.5	3.0
χ^2 検定		***	*				
G. 形状変化の要望							
ア. 変えたい		76.2	58.6	80.5	54.8	94.9	78.8
イ. 現在, 実行中		16.3	20.7	15.3	21.4	5.1	19.7
ウ. 思わない		7.5	20.7	4.2	23.8	0.0	1.5
χ^2 検定		***	*				
H. 実現の方法							
ア. 運動・トレーニング		74.8	65.5	77.1	61.9	84.6	77.3
イ. 食事注意		51.7	24.1	58.5	42.9	56.4	54.5
ウ. 薬・補助食品		4.1	0.0	5.1	7.1	0.0	0.0
エ. 専門的エステや整体		7.5	6.9	7.6	2.4	2.6	4.5
オ. 外科的治療・手術		0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
カ. その他		1.4	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
I. 最も効果的な方法							
ア. 運動・トレーニング		63.3	72.4	52.5	64.3	53.8	53.0
イ. 食事注意		21.1	3.4	25.4	14.3	19.7	27.3
ウ. 薬・補助食品		0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
エ. 専門的エステや整体		8.2	3.4	9.3	2.4	12.8	9.1
オ. 外科的治療・手術		2.0	0.0	2.5	4.8	0.0	0.0
カ. その他		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
J. 思わない理由¹⁰⁾							
	n=15	n=7	n=8	n=13	n=1	n=1	
ア. 必要ない		93.3	100.0	75.0	69.2	100.0	100.0
イ. 方法が分からない		6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウ. 無駄		0.0	0.0	0.0	7.9	0.0	0.0
エ. 時間がかかりそう		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オ. お金がかかりそう		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カ. その他		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※ χ^2 検定 0.1%水準:***, 1%水準:**, 5%水準**

1) 全体的には、回答率で、体重については「知っている」>「知らない」(χ^2 検定0.1%水準)となり、体重には関心が高い。スリーサイズでは、逆に「知っている」<「知らない」(χ^2 検定0.1%水準)となり、関心は低いようである。計測する理由として、形状管理が意識され

- ていると考えられる。
- 2) 形状への好嫌では、半数以上の学生が今の自分の形状に不満があり (χ^2 検定0.1%水準), 変容要望から細身が志向されており (χ^2 検定0.1%水準), G願望からその志向は強い (χ^2 検定0.1%水準) と考えられる。
 - 3) 変容実現の方法, 効果的方法から, 運動・トレーニング, ついで食事注意が実現の方法として意識される傾向があると考えられる。
 - 4) 対象群別では, 形状への好嫌, 要望, 変容願望において女子が男子に比べて, 「気に入らない」(χ^2 検定1%水準), 「細くなりたい」(χ^2 検定5%水準), 「変えたい」(χ^2 検定5%水準) 等の志向が強い。
 - 5) 形状への好嫌では, 好きな部分と嫌いな部分について自由記述で回答を求め類型化した(表2-3参照)。女子の回答が, 好きな部位では, 腕・手首・手・指等に, 嫌いな部分では太股, 臀部, 脚・足に集中している。ファッションモデルや若い女性歌手によく見られる下半身細身への願望を読みとることが出来る。
 - 6) 形状への好嫌, 変容要望, 願望から, 理論群の形状変容願望は他群より低いと推察される。

表2-3 好きな部位と嫌いな部位 (自由記述類型:実数)

部位	対象	好きな部位			嫌いな部位		
		合計	男子	女子	合計	男子	女子
頭部			1				
顔部		1		1	6	1	5
首		1		1			
肩・その周辺		2	1	1	5		5
腕・手首・手・指等		10	1	9	9	1	8
胸部		2		2	11	2	9
背中					2		2
腰・胴体・腹等		2	1	1	16		16
臀部					8		8
太股		2	1	1	19		19
脚・足部		5	3	2	23		23

2 運動機能について (表3-1. 2) 参照

- 1) 全体として, 運動の好嫌から約8割は運動することが好き (χ^2 検定0.1%水準) と回答し, 概ね運動を好む調査対象であると見なすことができる。
- 2) 親しみのある運動から球技系の運動への嗜好が高いが, 優れている運動は特になく, 劣っている運動では, 筋力や心肺に持久性が必要とされる運動と自己評価している。
- 3) 得意な運動は (表4参照), 苦手な運動 (表5参照) の両者の上位に持久走があげられていることから, 大学生にとって持久走の能力は運動の優劣感に影響する運動と推察される。
- 4) 変容願望は強く (χ^2 検定0.1%水準), 変容方法, 効果的な方法として運動・トレーニングが意識されている。

表3-1 自分のからだの運動機能について

(%)

項目	対象	全体 147	男子 29	女子 118	理論 42	教養 39	専門 66
A. 運動の好嫌							
ア. 好きな方		81.6	93.1	78.8	81.0	66.7	90.9
イ. 嫌いな方		18.4	6.9	21.2	19.0	33.3	9.1
χ^2 検定		***					
B. 動きの機能							
ア. よい方		59.2	79.3	54.2	57.1	41.0	71.2
イ. 悪い方		40.8	20.7	45.8	42.9	59.0	28.8
χ^2 検定			**				
C. 親しい運動							
ア. 特にない		12.2	6.9	13.6	7.1	17.9	12.1
イ. 軽負荷運動		22.4	17.2	23.7	14.2	25.6	25.8
ウ. 高負荷運動		17.0	17.2	12.7	11.9	17.9	19.7
エ. リズム・体操系		10.2	3.4	11.9	2.4	20.5	9.1
オ. 球技系		54.4	69.0	50.8	61.9	76.9	36.4
カ. 日常生活の意識		4.8	20.7	18.6	7.1	0.0	6.1
キ. その他		7.5	6.9	15.3	4.8	2.6	12.2
D. 優れている運動							
ア. 特にない		45.6	24.1	50.8	50.0	64.1	31.8
イ. 力強い運動		21.8	34.5	18.6	15.7	12.8	30.3
ウ. 俊敏な運動		17.7	34.5	13.6	11.5	12.8	24.2
エ. 筋力・心肺・持久的		18.4	27.6	16.1	11.9	20.5	16.7
オ. 繊細・微妙な動き		3.4	6.9	2.5	2.4	10.3	0.0
カ. 部位的独自の動き		6.1	13.8	6.8	7.1	2.6	7.6
キ. その他		4.1	0.0	5.1	2.4	12.8	4.5
E. 劣っている運動							
ア. 特にない		18.4	37.9	13.6	21.4	12.8	19.7
イ. 力強い運動		19.0	17.2	21.2	23.8	17.9	19.7
ウ. 俊敏な運動		28.6	17.2	34.7	33.3	23.1	28.8
エ. 筋力・心肺・持久的		37.4	24.1	44.9	40.6	31.3	27.3
オ. 繊細・微妙な動き		17.7	10.3	19.5	2.4	20.5	25.8
カ. 部位的独自の動き		9.5	0.0	11.9	2.4	23.1	6.1
キ. その他		4.8	0.0	0.0	0.0	17.9	0.0
F. 動きの変容要望							
ア. 変えたい		76.9	62.1	80.5	61.9	71.8	89.4
イ. 実行中		2.0	3.4	1.7	2.4	5.1	0.0
ウ. 思わない		21.1	34.5	17.8	35.7	23.1	10.6
χ^2 検定		***	*				

※ χ^2 検定 0.1%水準:***, 1%水準:**, 5%水準*

表3-2 自分のからだの運動機能について

(%)

項目	対象	全体 147	男子 29	女子 118	理論 42	教養 39	専門 66
G. 実現の方法							
ア. 運動・トレーニング		74.8	65.5	77.1	61.9	74.4	83.3
イ. 食事注意		10.2	13.8	9.3	7.1	10.3	12.1
ウ. 薬・補助食品		1.4	0.0	1.7	2.3	0.0	1.5
エ. 専門的エステや整体		2.0	0.0	2.5	2.3	5.1	1.5
オ. 外科的治療・手術		0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	1.5
カ. その他		1.4	0.0	1.7	0.0	5.1	0.0
H. 最も効果的な方法							
ア. 運動・トレーニング		77.6	72.4	78.8	69.0	76.9	83.3
イ. 食事注意		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウ. 薬・補助食品		0.7	0.0	0.8	2.4	0.0	0.0
エ. 専門的エステや整体		7.5	3.4	8.5	0.0	25.6	1.5
オ. 外科的治療・手術		0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	1.5
カ. その他		0.7	0.0	1.6	0.0	2.6	1.5
I. 思わない理由¹⁾							
		n=31	n=10	n=21	n=15	n=9	n=7
ア. 必要ない		80.6	80.0	66.7	66.7	44.4	71.4
イ. 方法が分からない		35.3	20.0	42.9	13.3	44.4	57.1
ウ. 無駄		3.2	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
エ. 時間がかかりそう		3.2	0.0	4.8	0.0	0.0	14.3
オ. お金がかかりそう		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カ. その他		6.5	10.0	4.8	13.3	0.0	0.0

表4 得意な運動 (自由記述類型:実数)

	合計	男子	女子
持久走	10	4	6
球技	6	4	2
ダンス	4	2	2
特殊な動き	4	2	2

表5 苦手な運動 (自由記述類型:実数)

	合計	男子	女子
持久走	42	5	37
柔らかい運動	11	4	7
短距離走	9		9
筋力的で激しい運動	5	3	2
ボール投げ	4	1	3
複雑なパターン	4	2	2

- 5) 対象群別では、運動の好嫌で男子は女子より運動好きが多く、動きの機能においても男子の方が女子より高く自己評価する傾向 (χ^2 検定5%水準) がみられた。
- 6) 変容願望から、理論群の運動機能の変容願望は他群より低いと考えられる。形状の場合も同様な結果であった。運動とは直接関与しない大学の専攻、特別にその必要性がない生活環境は、他の教養実技群、専門実技群との相違をもたらしたのではないかと考えられる。

3 健康について (表6参照)

- 1) 全体的に、健康の度合いから、半数以上が自分は健康な方と自己評価している。しかしながら「心に問題有り」が「体に問題有り」より高い数値を示している。
- 2) この傾向はどの対象群にもみられる

表6 自分のからだの健康・自己制御について (%)

項目	対象	全体 147	男子 29	女子 118	理論 42	教養 39	専門 66
A. 健康の度合い							
ア. 心身ともに健康		66.1	72.4	64.4	66.1	64.1	66.7
イ. 体は健康・心に問題有り		20.4	10.3	22.9	19.0	17.8	22.7
ウ. 心は健康・体に問題有り		2.0	3.4	1.7	0.0	5.1	5.1
エ. 無回答		11.5	13.9	11.0	14.9	13.0	5.5
B. 自己制御							
ア. 出来る方		43.5	51.7	41.5	50.0	25.6	50.0
イ. 時々出来なくなる		36.7	17.2	41.5	42.9	56.4	21.2
ウ. 出来ない		3.4	0.0	4.2	0.0	10.3	1.5
エ. しようと思わない		2.7	3.4	2.5	0.0	2.6	4.5
オ. 無回答		13.7	27.7	10.3	6.9	13.9	22.8

4 自己制御について (表7参照)

- 1) 自己制御出来ない時・事象について自由記述で回答を求め類型化した結果から、食欲・睡眠の我慢、努力・努力継続の断念などがあげられた。健康の意識とも併せると、今回の調査対象者である大学生は、自分はこれらの点で精神的な弱さがあると意識している様子が窺うことができる。

表7 自己制御出来ない時・事象 (10人以上の自由記述)

食欲	緊張している時
睡眠	出来るようになる努力
疲労時の頑張り	努力の継続 (三日坊主)

IV まとめ

からだについて、形状、運動機能、健康・自己制御の視点から、大学生におけるからだへの意識を把握することを目的として実施した調査の結果は以下のように要約された。

- 1) 全体的には、半数以上の学生が今の自分の形状に不満があり、細身への変身が強く志向されており、その効果的な方法として、運動・トレーニング、ついで食事注意が意識されている。
- 2) 対象群別では、女子が男子に比べて細身への変身志向が顕著であった。
- 3) 好きな部分と嫌いな部分についての調査から、女子の好きな部位では、腕・手首・手・指

- 等、嫌いな部分では太股、臀部、脚・足への集中し、下半身細身への願望が顕著となった。
- 4) 運動機能について全体として、約8割は運動することが好きと回答し、約6割は自分は運動機能はよい方と自己評価している。
 - 5) 球技系の運動への嗜好が高いが、優れている運動は特になく、劣っている運動では、筋力や心肺に持久性が必要とされる運動と自己評価している。
 - 6) 運動機能の変容願望は強く、効果的な方法として運動・トレーニングが意識されている。
 - 7) 男子は女子より運動好きが多く、動きの機能においても男子の方が女子より高く自己評価する傾向がみられた。
 - 8) 健康について全体的に、半数以上が自分は健康な方と自己評価している。しかしながら「心に問題有り」が「体に問題有り」より高い数値を示した。
 - 9) 自己制御について自己制御出来ない時・事象について食欲・睡眠の我慢、努力・努力継続の断念などがあげられ、自分がこれらの点で精神的に弱いと意識しているようである。

V おわりに

からだの形状・機能に関心を持つこと、痩身を心がけることは問題ではない。若者の流行へ憧憬をむやみに断念させる必要もない。むしろ、表現系の競技選手、ダンサー等を志す身体には厳しい痩身が求められることも現実にはある。しかしながら、学校教育という範疇の中で、学生が異常と思える行動に陥る事態、からだを物化して捉えられる風潮の流布は忌避したい。

今回の調査から大学生、特に女子学生の細身変身願望は、運動機能向上の願望とともに強いことが明確となった。その方法として、サプリメント、痩身薬ではなく、運動・トレーニングが意識されていること分かった。しかしながら、過剰なダイエットから摂食障害を招くこと、その当事者は食生活が異常であると認識しつつ、他者の目前では普通に振る舞う場合が多い事等、この調査内容には私的守秘事項とも深く関連した事項が多く含まれる。したがって、今回の調査における回答は、このような推測を踏まえた上での解釈であり不透明性が残る。また、母集団が大分大学教育福祉科学部学生に限定されている事、調査対象者総数、統計処理等から言及できる範囲は極めて制約されると考えられる。調査方法の妥当性も含めてさらに詳細、かつ緻密な検討については今後の課題としたい。

注

- 1) 平成14年度前期開講「現代芸術事情」。対象は情報社会文化課程学生2年生、必修科目。現代芸術について音楽、美術、身体表現の分野から各4時間ずつ概論的にアプローチするオムニバス形式の講義である。筆者は、舞踊芸術の歴史と現代の動向を概観した後、ホラー映画にみる身体表現というテーマで「リング」「らせん」「リング2」を題材に身体表現のあり方を分析し講義した。この質問は筆者による講義が終わった時点で行った。方法は質問紙による問いかけと自由記述による回答であった。
- 2) 藤田徳人 (2003) love loveダイエット <http://diet.goo.ne.jp/nonmember/lecture/love/005.html>, <http://diet.goo.ne.jp/nonmember/lecture/love/006.html>
- 3) 一例として、USA製品には、体脂肪燃焼効果を上げるために、強い副作用を呈する成分や常用すると幻覚があらわれるエフェドリン等が含有されているものもある(例：<https://www.456.com/xena/xena.html>等参照)。日本では生産されておらず、USAから個人輸入(代行会社を通じて)で入手できる。フェンフィルラミン含有の中国茶事件以来、生産は縮小あるいは中止の方向にあるといわれている。

- 4) 大分合同新聞 平成14年12月12日 朝刊 第3面
- 5) 丹羽劭昭 (1997) 運動への興味やパーソナリティーとマスコミュニケーションとの関係—中学生の漫画やビデオを中心に— 第14回スポーツ教育学会抄録 p.30.
- 6) 「からだ」は身体、体等の漢字表記があるが、本稿では人にとっての「からだ」そのものがどの様に把握されているかを知ることが目的としたので、中立的な立場を明確にするために、平仮名表記「からだ」を用いることとした。
- 7) 上記1)と同様の講義である。
- 8) 表2-1の体重あるいはスリーサイズのどちらかで、計測をする方と回答した人数を表中に「n=」で表記し、パーセンテージの分母とした。
- 9) 表2-1の体重あるいはスリーサイズのどちらかで、計測をしない方と回答した人数を表中に「n=」で表記し、パーセンテージの分母とした。
- 10) 表2-2の形状変化への願望で、思わないと回答した人数を表中に「n=」で表記し、パーセンテージの分母とした。
- 11) 表3-2の動きの変容願望で、思わないと回答した人数を表中に「n=」で表記し、パーセンテージの分母とした。

A Study of the Undergraduate-students' Consciousness of their Own Bodies

ASO Kazue